

## 【2015 年度 RFLJ プロジェクト未来 助成研究者の横顔 3 梅田雄嗣先生】

第 3 弾は「基礎研究・臨床研究」（I 分野）よりご紹介致します。

- ◆京都大学大学院医学系研究科発達小児科学 梅田 雄嗣先生
- ◆研究テーマ「小児固形腫瘍共通の細胞表面抗原をターゲットとした新規抗体治療の開発」
- ◆助成金額 200 万円

### 1. 研究者になろうとしたきっかけ

私は血液・腫瘍を専門とした小児科医として臨床経験を積んできました。しかし、最近の抗がん剤治療の進歩により白血病や悪性リンパ腫などの血液悪性疾患の治療成績は飛躍的に向上したのとは対照的に、小児固形腫瘍の治療成績はまだ非常に悪く、新しい治療法を開発する必要性を感じて基礎研究の道に足を踏み入れる事を決意しました。

### 2. 助成研究の内容紹介（素人にも解るようにお願い致します）

我々は多くの小児固形腫瘍の起源と考えられている神経堤細胞、間葉系細胞の表面にある様々なタンパク（抗原）の発現を調べた結果、悪性ラブドイド腫瘍・神経芽腫・ユーイング肉腫・横紋筋肉種・骨肉腫などで共通して発現している表面抗原を見つけました。今後の研究ではこれらの小児固形腫瘍の増殖を抑制できるこの表面抗原に対するモノクローナル抗体を作製することを目指して行きます。

### 3. 2 の将来に繋がる結果予想

モノクローナル抗体が完成すれば、現在の抗がん剤治療・手術・放射線治療では根治できない小児固形腫瘍の患者さんに対する新規治療として期待できると考えられます。

### 4. 全国の RFLJ 関係者に一言

今回頂いた研究助成金を大事に使って、小児がん患者さん達を元気にする治療法の開発に懸命に取り組んで行きます。応援よろしく申し上げます。